

令和3年度宇部市総合教育会議（第2回） 議事録

1 日 時 令和3年8月17日（火）18:00～18:50

2 場 所 宇部市役所 4階 第2・3・4委員会室

3 出席委員の氏名

篠 崎 圭 二 市長
野 口 政 吾 教育長
田 村 賢 二 郎 委員
山 野 あ い 子 委員
川 崎 裕 美 委員
重 村 美 帆 委員

4 事務局出席職員

上村教育部長、床本次長、橋本次長
藤井施設課長、原学校教育課長、藤田教育支援課長、半田学校給食課長、
本多人権教育課長、石川学びの森くすのき・地域文化交流課係長、山下図書館長、
伊藤総務課副課長、平山総務課副主幹、河村総務係長

5 趣 旨

（事務局）橋本次長

ただ今から、令和3年度宇部市総合教育会議（第2回）を開催いたします。

本日の議題は「教育大綱について」、（1）基本理念・教育目標について、（2）意見交換
です。

本日の会議の終了時刻は、18時50分を予定しています。

それでは、ここからの進行は、本会議の主宰者であります篠崎市長にお願いします。

（委員）篠崎市長

皆様、改めまして、こんばんは。お足元が悪い中ご参集いただきましてありがとうございます。

ただ今から、令和3年度第2回総合教育会議を始めます。

今回の議題は、教育大綱を定める件となっております。

第1回総合教育会議でご説明させていただきましたが、教育の目標や施策の根本的な方針となる大綱は、総合教育会議で協議、調整を尽くし、市長が策定することとなっております。一方で、教育振興基本計画を定める場合には、計画における目標や施策の根本となる方針の部分が大綱に該当すると考えられることから、この計画をもって大綱に代えることができます。そこで、今回の総合教育会議にて教育大綱を定め、教育振興基本計画をもって教育大綱に代えることとしております。本日はその案をお示ししたいと思います。

第1回の総合教育会議では、委員の皆様から多くの貴重なご意見をいただきました。健康教育やデジタル教育、子どもたちの尊厳、子どもたちをしっかりと認めてあげるとか、心の強さや自己肯定感、子どもたちの人生をどうしたいか、子どもたちが自分たちでどう考えていくか、その土台を作るのが教育、また多様性を認める、社会環境の変化の中でデジタル化が必要、など様々な議論をいただき、ありがとうございました。今回は、それらの

意見を踏まえ、私の描く教育像を、基本理念、教育目標としてまとめましたので、事務局から説明させていただき、その後で委員の皆様からご意見をいただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

(事務局) 橋本次長

お手元の資料をご覧ください。

下の枠が、今回の第2期教育振興基本計画の基本理念、基本目標の案です。

まず、基本理念についてですが、「自立」と「共存同栄」、宇部を愛し、未来を拓くひとづくり」と掲げています。こちらの内容は、児童生徒が主体的に学び、確かな学力と豊かな心と健やかな体を育むためには社会や環境の大きな変化を意識しながらも、不易と流行についてのバランスをもって、学びの形を考えていく必要があります。そのため、ICT技術を活用した授業や、将来への夢や希望を描き意欲・態度・能力を育てるキャリア教育、人と人との関わり合いを生かした協働的な学び、行事・体験を通じた活動などに取り組むことで、児童生徒の夢・希望を実現する教育を展開していきます。

また、自己実現の思いは、あらゆる年代で希求されることから、生涯にわたる学びを支えるとともに、多様性や、助け合い・支え合いについての理解も深めることで、共生社会の実現、SDGsの達成も目指してしていきます。そこで、第2期計画においては、これを基本理念として定めています。

まず、『自立」と「共存同栄』では、子どもでも、大人でも、誰もが、自分の将来や人生に夢や目標をもち、一人一人が個人として「自立」し、生き抜くことと、一方で、宇部で培われてきた「共存同栄」の精神（こころ）で、皆が、助け合い・支え合いの中で、ともに学び合い、ともに成長することを願い、理念に掲げています。

次に、『宇部を愛し、未来を拓く（ひらく）ひとづくり』では、市民皆が、「自立」と「共存同栄」の気持ちを持って、私たちの住む宇部を愛すること、また、愛する心を育んでいくことを願うとともに、未来を切り拓き、宇部の将来を担う人材を、育てていくことを、表しています。

次に、基本目標1についてご説明します。「基本目標1 子どもたちの夢・希望の実現に向けた学びと社会の変化に対応した教育を推進します」は、次世代を担う子どもたちの夢・希望を実現するためには、不易（変わってはいけないもの、変えてはいけないもの）と流行（世の中の変化に伴い変わりゆくもの）にバランスをもった教育が必要です。市制施行100年周年を迎えた宇部市の礎を語る彫刻や、地域文化としての赤間硯や琴など、地域に息づく伝統文化などの教育に取り組むとともに、グローバル化やICT技術など変化する社会に柔軟に対応する力を養う英語教育やICT教育なども積極的に推進し、子どもたちの夢・希望の実現に取り組んでいきます。

「基本目標2 共生社会の実現とSDGsの達成に向け人と人が助け合い・支え合う教育活動を展開します」は、誰もが互いの人格と個性を尊重し、性的マイノリティなど多様な在り方を認め合うとともに、社会の抱える様々な課題を、地域と一体となって解決し、持続可能な社会の実現を目指します。教育における課題の解決は、SDGsの掲げる17の目標に位置付けることができます。この世界的な取り組みを、教育の分野でも意識的に取り組み、その達成を目指していきます。また、人々がお互いを理解し、助け合い、

支え合う教育も目指していきます。

「基本目標 3 生涯にわたり学び続ける環境と地域ぐるみで子どもを支える体制を整えます」は、生涯にわたり学び続けることは、自己実現・自己充実など、有意義な人生を叶えてくれます。それを成すため、学校においても、社会においても、そして生涯にわたり学び続けることが可能な環境が必要です。また、将来の宇部を担う子どもたちは、地域の宝でもあり、宇部市で、地域で、力強く支えていくことが必要です。そこで、これらを支える環境・体制を整えていきます。

「基本目標 4 安心・安全に過ごせる質の高い教育環境を提供します」は、「基本目標 1 子どもたちの夢・希望の実現」、「基本目標 2 助け、支え合う教育」、「基本目標 3 生涯にわたる学び、地域支援体制」、これらを実現するためには、安心安全な環境とその質の高さが必要です。そこで、学校施設や、図書館などの社会教育施設、その他の様々な教育施設において、安心安全を備えた質の高い環境を提供していきます。

これらが今回の理念と目標の案となりますが、お手元にはもう一枚資料をお配りしています。その資料は、第 1 期計画で取り組んでいる計画を、仮に第 2 期計画に当てはめたもので、目標をイメージしやすいように作成した参考資料です。

(市長) 篠崎市長

ただいま教育大綱の案を提示させていただきました。ここから、委員の皆様のご意見をお願いしたいと思います。

(委員) 山野委員

第 2 期の基本理念が『「自立」と「共存同栄」で、宇部を愛し、未来を拓くひとづくり』、となっていますが、「自立」は自分の力で物事をやっていくということで、「共存同栄」は皆で助け合って生きよう、皆で心をつなげて共に栄えていこうということ、そのような捉え方で良いでしょうか。

(事務局) 橋本次長

はい。宇部市の歴史の中で育まれてきた言葉「共存同栄」の中には、助け合い支え合って宇部市は発展してきたという観点があり、それを捉えて「共存同栄」という言葉を、宇部らしさを表す表現の一つとして入れています。助け合いを表現する言葉として良いのではないかと、今回この案を提案しています。

(委員) 山野委員

私は「共存同栄」という言葉はとても好きです。それが基本理念にきたことはとても良いことかと思えます。ただ、「共存同栄」がいきなり一番にくと、分からない人にとっては、元々宇部出身ではない方ですとか、例えば先生方なども、よく分からないかもしれませんので、注釈がつくと良いのではないかと感じました。それから、基本目標 1 ですが、今まで「学び合い」という言葉が掲げられていましたが、「学び合い」がちゃんとこの中に入っているのです、私はこの目標はとても良いと思いました。「学び合い」をその中から始めて未来の担い手になるために必要な能力を学校で育てる意味だと解釈しました。

よく分からなかったのが基本目標 2 で、『共生社会の実現と SDG s の達成に向け』は、宇部市の大きな目標で、SDG s 未来都市と先導的共生社会ホストタウンという大きな市の目標が、基本目標 2 にきて良いのかと思いました。それから、確かに『共生社会で人と

人が助け合い支え合う教育活動』というところは当てはまると思いますが、『SDGsの達成に向け』というところをそこに持ってくると、2030年までに達成すべき17の目標全てがそこにはまらないかもしれないと思いました。17の目標で、例えば「11住み続けられるまちづくり」は、基本目標3に入るように感じますし、1にも2にも3にも4にも入るとというのがSDGsの17の目標だと思いますので、限定的に言うのか、その辺りがよく分からなかったというのが意見です。最後に、基本目標1、2、3を実現するために基本目標4があるというのはとても良く分かりました。だから、第1期よりは第2期の方が分かりやすくなっていると思いました。

(委員) 篠崎市長

ありがとうございます。

(事務局) 橋本次長

共存同栄のところがやや分かりにくいという点については、私どもも懸念はありました。ただ、宇部市ならではの、やはり宇部らしさということ、御存じない方もこれから宇部を学んで宇部を愛していただくためにはこの言葉を掲げて、これからも住み続けていただきたいという思いもありました。次にSDGsについてですが、17の目標がありますが、目標によっては複数のターゲットに該当するものもありますし、1つだけというものもあると考えます。しかし、SDGsの目標を達成ということは、市の進んでいく方向性と合致しているし、共生社会につきましても、今、多様性やホストタウンとしての取組などを教育の中でも学んでいただきたいという思いもあり、この項目を、大きな目標ではありますが、宇部市全体で、また子どもから先生、大人も学んでいくという気持ちを込めて、ここに掲げています。

(委員) 山野委員

目標にSDGsを入れると、そこに含まれる個別事業のはまり具合がすごく難しくなってくるのではないかと感じたので、基本目標2とするよりは、もっと大きいところに入るのが良いのではないかと気がしたのが正直なところです。

(委員) 篠崎市長

ありがとうございます。前回の議論でも「共存同栄」については委員の皆様から様々な意見をいただきました。その中でもありましたが、この「共存同栄」という意味が、100年前の言葉ですが、現在のSDGsや共生社会と通じるところが非常にあるという議論があったかと思います。やはりその辺りを考えるとSDGs、また共生社会は絶対達成しなければいけない目標の一つであると思います。そういう部分を実現するためにはやはり教育が何よりも、また、人材育成が非常に重要になってきます。「共存同栄」という言葉について、宇部らしさ、宇部の歴史的視点を踏まえ、様々な機会で講演させていただいていますが、まだ御存じない方もおられます。さきほど注釈という言葉もいただきましたが、是非大事なことだと思っています。宇部市らしさというところで「共存同栄」という精神はどういうものなのか。時代が100年たった今でも、SDGs、共生社会と非常に通じるものがある言葉だということ、これは非常に大事なポイントであると思います。しかし私も、今山野委員が言われたように、ここでどれが上に来るかを先に考えてしまうと、どれでくれるのか、全体でくくろうと思うともちろん全ての施策、共生社会を実現しようと

するところである、基本目標 1、2、3が必要になってしまいます。SDGs を達成しようと思っても、基本目標 1、2、3、4全部が必要になります。基本目標 2でSDGs、共生社会の実現を掲げていいのかという点については、少し議論が必要かもしれません。しかし各論を考えるより、まず大きな幹を考え、基本目標 2を達成するために、基本目標 2の施策と基本目標 1の施策がかぶるところはあります。整理の仕方で難しいところがあるのは、私もいろいろ政策をまとめたことがございますので承知しております。その点については、細かい部分を作る時に、いただいたご意見をしっかりと反映させていただければと思います。

それでは、川崎委員、お願いします。

(委員) 川崎委員

共存同栄や共生社会、SDGs といった宇部市の取組が前面に出ているところが見られるので、私は、宇部市を存分にアピールしてあり、宇部市のことがよくわかるような第 2 期計画になっているのではないかと思います。「自立」のところでは、自分を認めるとか自分を愛するとかあって、「共存同栄」のところでは他者を認めるとか他者を愛するとかあって、その後で「宇部を愛し」とあって、宇部という言葉が入っているところが、第 1 期と比べて、ふるさとではない、「宇部」だということがすごく分かって良いのではないかと思います。さきほどの、基本目標 2のSDGs の議論ですが、共生社会やSDGs という宇部が取り組んでいるものを、教育活動として取り組んでいくという意味に捉えたら、私はすんなり納得できたところでした。内容を見たらちょっと疑問に感じたという、山野委員さんの意見は分からなくはないですが、その後に「人と人が助け合い支え合う教育活動を展開します」となっているので、それでも良いのかなと個人的には思っています。

(市長) 篠崎圭二

ありがとうございます。言われる通りで、先ほど山野委員が言われましたが、SDGs と言いながら、基本目標 3の「文化財保護事業」はSDGs と被るところではありますが、基本目標 3にあるからと言って、SDGs をやらないという意味ではなく、SDGs を推進するための教育を推進するという理解の方が、整理された考え方であると思っています。ありがとうございます。それと、さきほど、「宇部を愛し」という言葉、実はこれ「ふるさとを愛し」としておりましたが、「ふるさと」だったら、ふるさとが違う方もたくさんおられますから、他のところがふるさとの方であっても、宇部を愛してもらいたいという思いを言葉として表現させていただき、こういう形にさせていただいています。ありがとうございます。

それでは、田村委員、お願いします。

(委員) 田村委員

基本理念『「自立」と「共存同栄」、宇部を愛し、未来を拓くひとづくり』、「共存同栄」ですね、宇部の言葉という感じですが、「共存同栄・共同一致」までが私の中ではワンセットかなと思ってまして、「共同一致」は無くなったわけではないと思いますが、この中に含まれているのか、というところがあります。表に出た方が良いかなという思いは自分の中ではありますが、ちゃんと中の方ではしっかり「共存同栄・共同一致」のところまで、その精神まで入れていただけるものだと思います。それから、「宇部を愛し」という言

葉も良いと思います。やはり地元宇部市を愛するということはSDGsと言いますか、自己肯定感というところにもつながってくると私は思っていますので、「宇部を愛し」というのははっきり入れたことは良いと思いました。それから、基本目標1ですが、メインの教育の方ということになりますが、前回の時に「学び合い」という言葉がありました。今回は「学び合い」という言葉は無くなりましたがその中には含まれているということではありましたが、「学び合い」という言葉も私の中でも宇部市の教育のすごく特徴のあるところと言いますか、先進的にやっているところなのでその言葉はどこかに入っても良いかと思いますが、あまり長くなってもいけないと思いますので、そのことが決して疎かになることはもちろんないとは思いますが、その辺りをしっかりしていただきたいと思います。基本目標2が一番大事なところで、先ほど説明でもLGBTの話がありました。これが大事な話で、宇部市でも、LGBTに関連し、パートナーシップ宣言も始まります。細かく書いてある中に、LGBTの項目が一つあっても良いのではないかと。多分これは人権教育の中に含まれるのかもしれませんが、実際、LGBTの方々はクラスの中に2人も3人もいるであろうということは言われているので、人権教育というよりも、力を入れてやっていただきたいと思っています。

(市長) 篠崎市長

ありがとうございました。「学び合い」の部分は、これまでしっかりと取り組み、今までで成果が上がっているということもありますので、今後は支え合いとか助け合いとかいうところ加えて、今まで良かったところを活かしていきたいと思います。今、資料としてまとめているものは、既存事業を第2期計画でやったときの仮定のもので、もちろん今後必要になってくる新たな事業、デジタルとか、LGBTQとか、そういう教育を、新しい施策の体系にしっかり入れていかなければいけないと思っています。それと、県の計画でも、両方の目標にかかる事業というのはやはりあります。そういう場合は、やり方の一つとして、再掲という形で、基本目標1の施策でもあるけれども、基本目標2の施策でもある場合は、再掲という形で書くということも県ではよくやるやり方ですので、そういうやり方もあるのではないかと考えています。

では、重村委員、お願いします。

(委員) 重村委員

第1期から第2期に変わった中で、今川崎委員が言われたように、「宇部」という言葉がはっきり具体的に出てきたことはすごく良いと思いました。自分たちのことだ、ということが具体的に示されるというのが、いろいろな目標であるとか目的であるとか理解していく時にすごく大事なことだと思いますので、今回「宇部」という言葉が出てきたことは、基本理念としてはすごく良いことだと思います。ほとんど他の委員さんが言われたので、私から少しあるのは、基本目標4ですが、今回この基本計画の主体になるのは私たち市民ですよ、市民が、自分たちのことだとして捉えられるような教育大綱になると良いと思っています。子どもたち、それから私自身も自分の人生をどのように生きていくかというのが、この教育大綱を見るとわかるとすごく良いなと思っていますので、その中で、他のところは推進しますなどの言葉が使われていますが、基本目標4が「提供します」となっていて、少しだけ、受け身になってしまうと感じています。子どもたちが自分の命を

自分で守っていく、他人の命も自分が守っていく、ということ意識していくためには提供されるだけではなく、自らもそこに、そうですね、「～していく」という言葉、文言になるともっと良くなるのではないかと感じました。

(委員) 篠崎市長

ありがとうございます。「提供します」、確かに、そういうふうに捉えられるなど私も今思いました。例えば、他の目標の言葉を考えてみると、創造の創で、「創ります」とか、一緒に創っていく、これから共創の時代、共に創る時代と言われているので、そういうものをあてがっても良いのかと思います。委員の皆様から、こんな言葉はいかがでしょうかというのはありませんか。創る、整理する、整えますというのがありますが、一緒に教育環境をつくっていくなどでは。

事務方との協議において、市議会から社会教育、特に大人の方の教育ですが、デジタル化が進み、また社会が多様化する中で、十分対応しきれていないので、市として社会教育をもっと充実させるべきだとの議論をしました。その点を意識して、最初は子どもという文言を入れていましたが、そこを子どもに限定せず、市民の皆さん全ての教育環境を作っていこう、提供していこうということで、こういう言葉にさせていただきました。しかし提供するというだけでは受け身になってしまうと思いますので、一緒に皆でできるような言葉がありましたら是非お願いします。

(委員) 川崎委員

第1期では「実現します」となっています。「実現します」でも良いかと思います。

(市長) 篠崎市長

ありがとうございます。

(委員) 山野委員

重村委員さんが言われるまで気づきませんでした。これでは、提供する方ことばかりになってしまい、交通安全とか通学路安全対策事業とか、自分の命は自分で守るという部分が入っていることを考えると、「提供」ではない方が良いですね。皆で考える、皆でやっていく。

(委員) 重村委員

ここの一つだけ、目標が受け身になっています。今はどちらかという、双方向だと思っていたので。ここの目標だけ、行政の仕事、みたいな目標になっているという印象を私は受けました。

(委員) 山野委員

目標4は、そういう目標なのだと思って、変えるという考えがありませんでした。目標4をこのようにしているから、基本目標3のところ、交通安全が上がってきたのだと思っていました。

(委員) 篠崎市長

最初に事務局から説明しましたが、基本目標4をこの文言にしたのは、1、2、3と大きな柱がある、この基礎部分をこの基本目標4で作り上げていく、ここは行政の責任としてやっっていこうというところで最初は提供していくとしました。今、委員から言われたように、今後は、行政だけで一方的に提供していく時代ではないという感覚を私自身もすご

く思いますので、今日この場で決めていきたいと思います。質の高い教育環境を実現します、と委員からご提言いただきましたが、そういう形にすると、一緒に実行していこうという形になり、私は、より良い形になると考えていますが、いかがでしょうか。

(委員) 田村委員

良いと思います。

(市長) 篠崎市長

では、ここの部分は「実現します」という形で整えさせていただいてよろしいでしょうか。

(異議なし)

(市長) 篠崎市長

では、続いて、野口教育長をお願いします。

(委員) 野口教育長

この案を作る段階では、私も市長さんと一緒に、いろいろな話をさせていただきましたが、本日、委員の皆様から多くの貴重な意見やご指摘をいただいたことに感謝しています。

私自身、反省が2つあって、その反省からこのような形になったことを少し説明させていただきたいと思います。まず一つは学校教育です。学校教育と言えば、宇部市の義務教育。公立学校は、「宇部市立〇〇小学校・中学校」で、「宇部市立」なんです。ところが、私の教員経験で言えば、学校の先生、子どもたちは、そのことを意識していません。宇部市の方針や方向性、市政とかを。私は、校長会や教頭会で、とにかく市民目線の教育、市政を意識した教育を実施してほしいと必ず言っています。例えばSDGsでは、宇部市はSDGsに取り組んでいることから、それを学校教育にも活かそうとする動きが、少しずつ出てきています。また、このたびはあえて共存同栄を入れました。宇部市民なら誰でも知っていると思っていましたが、先ほど市長さんが言われたように子どもたちも知らない。これも笑い話ですが、小学生や中学生が合唱大会などで、渡辺翁記念会館に行ったとき、子どもたちが銅像を指さして「あれは誰だろう。」と言います。「誰だろう。」という先生もいます。宇部に転勤してきた先生方には、宇部は「共存同栄」の精神（こころ）なのだ。そして、学校教育の段階から、先生たちも子どもたちも、十分には解らないなりに、「共存同栄」とはこういう（助け合い支え合うという）意味なのだと強く意識してもらいたいとのことで、市長さんと相談し、こういう形にさせていただきました。これが最上位の理念にあると、必ず意識すると思いますし、先生方もかみ砕いて子どもたちに伝えられると思います。

もう一つの反省は、先ほど市長さんも言われましたが、教育といったらやはり学校教育となります。話の8割9割は学校教育です。ところが、社会教育や生涯学習、これを疎かにしてきたつもりはありませんが、今の時代、地域が連携し、そして生涯教育、生涯学習の時代においては、今から社会教育、生涯学習の理念をしっかりと整えるための体制を我々は作っていかなければなりません。そして、市長部局としっかり連携協働していかなければやっていけないということで、あえて基本目標3に、生涯にわたり学び続ける。それも大人になっても学び続けられるような社会教育、生涯学習を行っていききたい。それを

我々が支えながら、そしてその人たちが地域の中で学校を支えていただきたいという意味を込めて基本目標3を考えさせていただきました。共生社会とSDGsはまさに山野委員さんが言われるとおりですし、委員の皆さんの思いもよく分かりますが、私としては全てを網羅するもので、シンボリックなもの。例えば、特別支援とか、人権とか、特に宇部の中で、今後の宇部市の教育で力を入れていきたいものをここに挙げていければ良いのではないかと考えています。いじめ・不登校もそうですし、LGBTもそうです。今から考えていく中で具体的な言葉も出てくると思いますのでお知恵をいただければと思います。

(委員) 篠崎市長

ありがとうございました。委員の皆様からこれを言っておきたいとか、気を付けてほしいなどがありましたら、ぜひ伺っておきたいと思います。

よろしいでしょうか。

今日の反省点ですが、皆様のもとに今回の基本目標とかしっかりと事務局の説明文等事前に配って、しっかりと皆様に読み込んでいただいていたかといけなかったと反省しています。本当に申し訳ありません。そのような中にも関わらず、皆様からご意見いただいたので本当にありがとうございました。

それでは、今回の会議をまとめさせていただいてもよろしいですか。

先ほどご意見をいただきました、特に基本目標4「安心安全に過ごせる質の高い教育環境を提供します」。この文言を「質の高い教育環境を実現します」に変更させていただく形で大綱を定めさせていただいてよろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。ではその形とさせていただきます。そのほかの部分、基本理念は『「自立」と「共存同栄」、宇部を愛し、未来を拓くひとづくり』ということで進めさせていただければと思いますので、よろしく願い申し上げます。

また、この案で、今ご承認をいただいたという形でよろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。今、ご承認をいただいたものとして、お示させていただきました案を、市長として、教育大綱に定めさせていただきます。よろしく願い申し上げます。そして、教育振興基本計画を教育大綱に位置づけてまいりますのでよろしく願いいたします。今後はこの大綱を達成するための事業施策を各課に組み立てさせ、また、検討委員会や市民の皆様からのご意見を伺いながら教育振興基本計画の策定に努めてまいります。その際には、先ほど山野委員さんからご意見いただきましたが、分かりにくい部分、多くの目標にわたる施策も出てくると思いますし、先ほどご意見いただいたLGBTQなど新しい時代の流れとして、必要となってくる施策等も出てきますので、その辺りに関しまして、しっかり検討させていただき、計画案を策定した段階で、総合教育会議をあらためて開催し、委員の皆様のご意見をお伺いしたいと考えておりますのでよろしく願い申し上げます。その時には、先ほどの反省点ではございませんが、事前に資料をしっかりと配付させていただいて、より良い会議となるよう努めてまいりますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして第2回総合教育会議を終了させていただきます。